

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 23 日現在

機関番号：31304

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530720

研究課題名(和文)ベトナム社会における高齢者福祉対策としてのソーシャル・サポートシステムの実証研究

研究課題名(英文)Empirical studies of the social support system as the elderly welfare measures in Vietnam society

研究代表者

赤塚 俊治 (TOSHIHARU, AKATSUKA)

東北福祉大学・総合社会福祉学部・教授

研究者番号：40285656

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：ベトナム社会での高齢者問題は、都市部だけの問題ではなく農村部にも共通した社会問題である。高齢者のソーシャルサポートに関する実証的研究成果からは、孤独感、疎外感、絶望感、貧困感、喪失感が浮き彫りにすることができた。今後はソーシャルサポートは、高齢者のQOLを高めるためにも重要であることを実証することができた。また、国家政策として専門職員の人材育成と養成は不可欠であることも示唆された。

研究成果の概要(英文)：Elderly problem in Vietnam society is a social problem that is common in rural areas rather than urban areas only of the problem. From empirical research on social support of the elderly, loneliness, alienation, despair, poverty feeling, sense of loss that I was able to relief. Social support the future were able to demonstrate that it is also important to enhance the QOL of the elderly. In addition, human resource development and training of professional staff as a national policy has also been suggested that it is essential.

研究分野：社会福祉学

キーワード：ベトナム 社会福祉 高齢者 ソーシャルサポート 地域格差 貧困 健康 専門職

1. 研究開始当初の背景

(1) ベトナム社会主義共和国

(Socialist Republic of Vietnam; 以下、ベトナムと略す) は、経済成長に伴い社会の生活形態は大きく変貌した。その経済成長を遂げている社会にあつて高齢者に関する生活問題は、一つの社会問題として深刻化傾向にある。そこで高齢者の生活実態に焦点を当てることで高齢者の生活問題を分析しながら諸要因を解明する研究活動を実施してきた。特に、急激な社会変動は、家族機能を変容させることになり、高齢者が抱える生活問題は介護など多岐にわたって社会的に取り上げられるようになった。

(2) 本研究では、高齢者の社会問題に対応するための社会生活支援や社会福祉システムの展望を考察するために、ソーシャルサポートの実証研究を取り入れた。その実証研究から得られた研究成果から今後の高齢者に対する社会生活支援はもとよりソーシャルサポートシステムの展望を示唆することを背景に研究課題を設定した。

キーワード: ベトナム 社会福祉 高齢者 ソーシャルサポート 地域格差 貧困 健康 専門職

2. 研究の目的

(1) ベトナムは1986年に開催された第6回ベトナム共産党全国大会において統制計画経済政策から「ドイモイ (Doi Moi: 刷新)」政策を採択し、市場経済の導入を図った。近年では、先進国からより安価な労働力を求めて、さらには、外国投資が増加し、国内の経済成長は飛躍的な発展を遂げるようになった。しかし、経済成長の影では高齢者を取り巻く生活環境は安定した暮らしを過ごしていると

はいがたい状況にある。むしろ、地域格差、所得格差、貧富の格差が拡大し、高齢者の生活困窮者にとっては、住みやすい生活環境ではない。特に、急速な社会構造の変動に直面し、人々の生活様式も生活意識も急速に変貌したことで、新しい社会生活の価値体系になじめず孤独感や無力感などに陥っている高齢者が都市部の高齢者だけではなく農村部の高齢者にも多く存在するようになった。

(2) 社会構造の変動が著しい状況下で、継続的にベトナムの社会福祉研究を実施してきたが、その研究上位目的は、社会福祉システムを構築するために基礎的生活要求 (BHN: Basic Human Needs) である教育、医療・保健、栄養、住居といった視点から科学的に分析し、さらには、ソーシャルサポートの人材育成・養成の実践プログラム研究を科学的に探求することであった。

3. 研究の方法

(1) 本研究では調査研究地として、ホーチミン市から北東約 130 km に位置する農村部のビントゥアン (Binh Thuan) 省ハム・タン (Ham Tan) 県ラ・ジ町 (LA Gi) で研究を実施した。

(2) 民家を借り上げて、「ソーシャルサポートセンター」を立ち上げた。参加する高齢者は、高齢者協会およびベトナム赤十字社ラ・ジ支部に 60 歳以上の男女合わせて 15 名前後が参加できるように要請した。実際に参加した高齢者は、15 名で町内各地から、歩き、自転車、バイクで参加していた。実施期間は、1 週間実施した。

(3) 実施期間中は、高齢者福祉のソーシャルサポートの具体的なあり方や今後のベトナムにおける社会福祉施策、高齢者の社会生活支援システムを構築するためにはどのような方法があるかを参加者に調査票を用いて、家族状況、日常生活の QOL、生活に対する希望などを調査しながら実証的研究活動を実施した。

4. 研究成果

(1) 1975年にベトナム戦争が終結し、翌1976年にはベトナム共産党による南北ベトナム統一がなされてから約40年の歳月が過ぎた。国民のなかには旧南ベトナム側に帰属していた中高年層のなかには共産党一党独裁政治に対する不平不満を抱いている国民が存在していることは、本研究で実施した調査研究からも明らかになっている。特に、高齢者

によっては旧北ベトナム政府側に帰属していた者と旧南ベトナム政府側に帰属していた者とは、社会生活支援が旧北ベトナム政府側に帰属していた高齢者が優先的に優遇されている場合がある。

(2)今日のベトナムは、先進国から世界の生産基地として注目を浴びようになり、世界市場の有望国として国際社会から評価が高まり、東南アジア諸国でも確固たる地位を確立する要因にもつながった。わが国もベトナムとの二国間関係の強化を図っている。

(3)都市部と農村部との経済格差や生活格差および貧富の差を拡大したことで、農村部では生活困窮者が増加し、2000年代に入ってから是一家離散や農村を離れて都市へ流出する現象が一段と顕著になった。このような現代社会の変動のなかで、生産手段を持たない高齢者の生活問題は顕在化している。

(4)今後のベトナム社会において高齢者における生活問題は数多く生起され、社会生活支援も含めた社会福祉分野の役割はますます重要な役割が高まってくると推考される。

(5)ベトナムの人口は、約9,070万人(2014年推計)である。国民の約70%が農村部で暮らしているが、農村部で暮らしている国民ほど憲法第52条で「すべての人民は法の前で平等である」と謳われてはいるが、過去の調査研究の研究成果から国民生活の実態は、農村部ほど生活状況は厳しい状況にある。さらにはベトナムの経済成長は、ベトナム社会の根底にまで影響を及ぼす法制度や政治システムの改革となって現れ、それとともに都市化現象、核家族化、雇用の多様化、高学歴化、さらには、社会・階級構造の変動を確定的に引き起こし、国民意識、精神生活の面においても世代間の違いを生起させている。

(6)急激な経済成長は国家体制にも社会全体の深層にも連鎖的に深く組み込まれ、しかもベトナム固有の民族意識として定着している。都市部の経済成長と農村部の経済衰退によって、農村人口は減少傾向を示している。こうした人口動態の変化には、市場経済と開放政策の導入を図ったドイモイ(刷新)政策以降、顕著に表れるようになった。主要都市で暮らす都市部の住民と農村部で暮らす住民とは、さまざまな格差が拡大した結果、都市生活と農村生活の生活構造に大きな影響を及ぼしたことも人口移動の大きな要因にもなっている。

(7)年齢3区分別の人口構成比は、年少人口は低下もしくは横ばいで推移しているが、生産年齢人口は減少し、老年人口の割合が上昇つづけている。さらには、農村社会においては、市場経済の自由競争によって農民層分解が生じて、貧富の差が拡大したともいえる。そこ

で問題となるのが、高齢者が家族とともに移動するのではなく、そのまま住み慣れた土地で生活し、子どもたちからの仕送りや単純労働の収入を主な収入源としている。しかし、その収入源はわずかな額にすぎないために、生活を維持するためには厳しい生活環境下にある。

(8)ベトナムの人口増加率は1960年から1970年にかけて平均3.1%台で推移していたが、1990年では1.92%、2002年は1.32%まで下がり、今後も合計特殊出生率は低下することが推計されている。また、ベトナム人口・家族児童委員会は、2015年以降微増ではあるが高齢化率は上昇を続けると推計されている。こうした社会的背景から、人口動態の変化は、近い将来、少子・高齢化が進展し、生産年齢人口が減少することによって、労働力人口の減少を招く恐れがあると危惧されている。また、農村部においては従来の伝統的な家族形態であった三世帯家族が減少しており、その一方では核家族が増加し、さらには、高齢者の単身世帯が増加している。こうした現状を踏まえると高齢者へのソーシャルシステムの構築と具体的な施策の重要性がますます不可欠と推考される。

(9)ベトナムでは、1986年「ドイモイ(Doi Moi:刷新)」政策の採択以降、国民生活に社会的変化・価値体系の変化をもたらした社会病理現象を生起させる複合的要因が顕在化し、ベトナムに根付いていた伝統的村落(ムラ社会)の希薄化、家族主義・機能が変容し、高齢者の身分的地位・社会的役割が衰退し、高齢者を取り巻く新たな社会問題として台頭した。こうした社会現状にあって、本研究は以下のような研究成果を示唆することができた。

①2012年度における研究では、ベトナム社会における高齢者対策としての人材育成・養成の必要性を示唆することを目的とし、ベトナムとわが国の介護職員の職務意識の構造の比較検討を行った。分析では、仕事満足度を独立変数とし、組織特性、介護肯定感を従属変数として χ^2 検定によって比較した。有意差のあった共通項目は、1. 現職の「動機づけ」では、楽しい。2. 組織特性の「相談指導体制」では、創意工夫、有益、楽しい。「意見を言える機会」では、楽しい。3. 介護肯定感の「満足感」では、やりがい、創意工夫、魅力、楽しいであった。その結果、職務意識は、現職の動機づけの起点、国家体制とは別の次元による組織特性、専門職意識によって影響を受けていることが明らかになり、ベトナムの社会的、文化的背景を機軸とした伝統と近代との融合の観点から専門職としての人材育成・養成の必要性が示唆された。

②2013年度における研究では、ベトナムの継続研究を踏まえ、その研究成果として、今

後、重要となる高齢者のソーシャルサポートの構造を明らかにすることを目的とした。ソーシャルサポートを独立変数とし、主観的幸福感を従属変数として χ^2 検定によって比較した。情緒的支援は、性別、職業の有無、病気の有無。手段的支援は、地域、職業の有無、病気の有無。認識評価的支援は、地域、職業の有無、病気の有無。情緒的支援は、心理的安定、楽天的思考。手段的支援は、心理的安定。認識評価的支援は、心理的安定、楽天的思考において有意差が認められた。以上の結果から、高齢者のソーシャルサポートの構造が明らかとなり、さらには都市部と農村部との地域社会を視座においたソーシャルサポートシステムの検討が不可欠な課題であることが示唆された。

③2014年度における研究では、都市部と農村部の地域共同体認識を通して社会的関係の構造を明らかにし、地域社会に即したソーシャルサポートシステムの方向性を示唆することを目的とした。地域（都市部・農村部）を独立変数として、地域共同体認識、ソーシャルサポートを従属変数として χ^2 検定によって比較した。地域共同体認識としては、時代と共に地域との関係が減少しているが、共同体認識が高いこと、さらには、高齢者の意見が尊重されていることへの認識は、都市部と比較して農村部が高いことが明らかになった。ソーシャルサポートでは、農村部では手段的支援が低く、都市部においては情緒的支援が低く、人口移動による地縁関係と罹患率が影響していることが明らかになった。主観的幸福感では、農村部で心理的安定が都市部と比較して高く、また、農村部、都市部共に楽天的思考が高いことが明らかになった。

以上の研究結果から、地域における社会的関係の構造が明らかになり、今後、ますます高齢化が進展することは統計的に予測されるなかで、人口移動を含めた地域における社会組織の再編として、地域共同体を補完するソーシャルサポートシステムが示唆されたことは、本研究課題の研究成果といえる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

- ① 赤塚 俊治, ベトナムにおける社会福祉の課題と展望に関する一考察—高齢者のソーシャルサポート研究を通して—, 東北福祉大学『東北福祉大学研究紀要』第39巻(通巻42号), 査読有, 2015, pp. 1-18,
- ② 後藤 美恵子, ベトナムにおける都市部と農村部の社会的関係の比較研究—ソシ

アルサポートシステムの示唆—, 東北福祉大学『東北福祉大学研究紀要』第39巻(通巻42号), 査読有, 2015, pp. 19-36

- ③ 後藤 美恵子, ベトナム社会における高齢者のソーシャルサポートの構造, 東北福祉大学『東北福祉大学研究紀要』第38巻(通巻41号), 査読有, 2014, pp. 17-31,
- ④ 赤塚 俊治, ベトナムの単身高齢者世帯の実態調査を通じた今後の高齢者課題について—農村部の生活実態調査に基づく考察—, 東北福祉大学『東北福祉大学研究紀要』第37巻(通巻40号), 査読有, 2013, pp. 1-19,
- ⑤ 後藤 美恵子, ベトナムと日本の介護職員の職務意識の構造の比較研究, 東北福祉大学『東北福祉大学研究紀要』第37巻(通巻40号), 査読有, 2013, pp. 83-101,

[学会発表] (計9件)

- ① 赤塚 俊治, ベトナムの高齢者への生活支援に関する一考察—農村のソーシャルサポート実践研究を通して—, 日本社会福祉学会第62回全国大会, 査読有, 2014年11月30日, 「早稲田大学(東京都新宿区)」
- ② 後藤 美恵子, ベトナム社会における高齢者のソーシャルサポートの関連要因—社会変容と地域機能からの示唆—, 日本社会福祉学会第62回全国大会, 査読有, 2014年11月30日, 「早稲田大学(東京都新宿区)」
- ③ 後藤 美恵子, ベトナム社会における高齢者のソーシャルサポートの構造—社会変容と家族機能の関係からの示唆—, 第56回日本老年社会科学会, 査読有, 2014年6月7日, 「下呂交流会館(岐阜県下呂市)」
- ④ 赤塚 俊治, 農村部におけるベトナム赤十字社の実態と課題に関する一考察—ベトナム赤十字社のソーシャルサポートシ

システムの構築に向けて-, 日本社会福祉学会第 61 回全国大会, 査読有, 2013 年 9 月 21 日, 「北星学園大学(北海道札幌市)」

- ⑤ 後藤 美恵子, ベトナムと日本の介護職員における職務意識の比較研究—社会の特性と専門教育の検討, 日本社会福祉学会第 61 回全国大会, 査読有, 2013 年 9 月 21 日, 読有, 「北星学園大学(北海道札幌市)」
- ⑥ 後藤 美恵子, ベトナム社会における高齢者対策としての専門教育の観点—ベトナムと日本の職務意識の比較—, 第 55 回日本老年社会学会, 査読有, 2013 年 6 月 5 日, 「大阪府立国際会議場(大阪府大阪市)」
- ⑦ 赤塚 俊治, ベトナムの農村部における単身高齢者の生活課題に関する一考察—ラ・ジ町の単身高齢者世帯の実態調査を通して—, 日本社会福祉学会第 61 回全国大会, 査読有, 2012 年 10 月 20 日, 「関西学院大学(兵庫県神戸市)」,
- ⑧ 後藤 美恵子, ベトナム社会の特質と社会福祉の展望—ベトナム高齢者福祉施設における仕事満足度と介護肯定感の構造—, 日本社会福祉学会第 61 回全国大会, 査読有, 2012 年 10 月 20 日, 「関西学院大学(兵庫県神戸市)」
- ⑨ 後藤 美恵子, ベトナム社会の特性と社会福祉の可能性—高齢化対策としての人材育成・養成の示唆—, 第 54 回日本老年社会学会, 査読有, 2012 年 6 月 9 日, 「佐久大学(長野県佐久市)」

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

赤塚 俊治 (AKATSUKA, Toshiharu)
東北福祉大学・総合福祉学部・教授
研究者番号：40285656

(2) 研究分担者

後藤 美恵子 (GOTOH, Mieko)
東北福祉大学・総合福祉学部・講師
研究者番号：50347902